真実に好きな人

迦陵れん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
真実に好きな人

【Ｎコード】
Ｎ０３８１Ｆ

【作者名】
迦陵れん

【あらすじ】
心のままに恋を重ねながら、真実の恋を探し続ける少女。初恋は小学五年生の時。そこから様々な人に出会い、恋をしては楽しく、辛い思いをしながらそれを繰り返していく。少女の恋に終わりは訪れるのか、真実に好きな人はみつけられるのだろうか・・・。

恋ってなんですか？

誰かを好きになったことはありますか？

自分以外の誰かを恋しいと、愛しいと思ったことはありますか？

私はある。

しかも、何度も。数え切れないぐらい。

恋をするたび、誰かを好きになるたびに、今度の恋は絶対なんだ、永遠なんだと思ってきた。

大人になったらこの人と結婚するんだ、素敵な家庭を作るんだって、好きな人ができるたびに考えた。

たとえ結婚しても、ずっとラヴラヴでいようって、子供ができてもイチャイチャしていたいって思ってた。

でもそれは全部、夢でしかなかったのかもしれない。

恋に恋していただけだったのかもしれない。

ふとそんな風に思えて、そんな自分が凄く悲しくなった。

答えはいつか見つかるの？　見つけられるの？

見つけたいけど、どうしたら本当の恋に出会えるのかな？

本当の恋って、どうしたら分かるんだろう？

知りたい。

その答えを……。

初恋　1

初恋は、いつだったろう？

幼稚園？　それとも小学校？

幼稚園の時、友達だった一人の男の子を好きになったような気がする。

苗字は覚えてないけれど、名前と顔は覚えてる……うん、きっと彼が初恋だったんだろう。

でも……。

本当に、そうだったのかな？

幼稚園の時のことだから、詳しいことなんて殆ど覚えてないし、恋する感情自体あったかどうか分からない。

あれが本当に私の初恋だったのかな？　彼はどんな人だったっけ？

彼は……そう、確か栗色の髪をしてた。肌の色は小麦色で、ちょっと周りの子たちと違ってたんだ。

きっと他の男の子たちとあまりに外見が違うから、それで気になったんだと思う。

そのうえ彼は、苗字と名前が五文字ずつ――あわせて１０文字で、そんな長い名前の子だって彼以外いなかったから、余計印象に残ったんだよね。

彼の名前の文字数を、指折り数えた記憶が微かに残ってるから…

…。

だけどやっぱり、彼が初恋だったのかと聞かれたら、分からないって答えると思う。

だって、今でもこうして色々と覚えてはいるけれど、彼とおしゃべりしたっていう、肝心の記憶がまったく残ってないんだもん。

一目惚れなら、しゃべったことがあろうがなかろうが関係ないかもしれないけど、あの時の自分が彼に一目惚れしてたとは、どうしても思えない。

ただ他の子と違う彼を、好奇の目で見ていただけみたいな気もしてくるし。

それに幼稚園児だよ？

まだまだそんな自覚、なかったように思う。

現代の、ませた子供たちなら、あるかもしれないけど……ね。

私の場合はそんなことなかったし、だからあれは、きっと違うんだ……。

初恋　2

私は小学生になった。
いわゆる『ぴかぴかの一年生』というやつだ。

でも、その時の私には、学校に対する期待？　なんて何もなかったように思う。
ただずっと、友達ができるかが不安だった。

なぜって私は、家から遠い幼稚園に通っていたから、同じ小学校に行く友達なんて一人もいなかったんだ。
他の皆は同じ小学校へ行くのに、どうして私だけ……って、何度もそう思った。

そのうえ私は小児喘息にかかっていて、満足に学校へ行くことができなかった。
調子がいい時は家で寝て、悪い時は入院して点滴の日々……。
そんな状態で友達ができるはずもなく、でも担任の先生だけは、私に優しくしてくれたのを覚えてる。

点滴の針で傷だらけ、内出血で青痣だらけになっていた私の腕を見て、「可哀相にね。もっと学校に来れたらいいのにね」って、涙を流してくれたっけ。
偶然にも、私の家がプールの目の前だったから、学校を休んだ日にプールがあると、そこから声をかけてくれたりもした。

そんな先生が大好きで、優しくしてもらえるのが嬉しくて、私はずっと先生にべったりだった。
先生がいれば、友達なんていらなかった。

当然、好きな人も……。

なのに、恋ってなんて単純なんだろう。
きっかけは、突然にやってきたんだ。

学芸会という形で。

もう詳しくは覚えていないけれど、私はあの時五人ぐらいで、動物の役をやったんだ。
その時に優しく話しかけてくれた彼が、次に私が『気になった人』。

彼のことも、好きだったのかと聞かれれば、きっと違うって答えると思う。
だから『気になった人』。

優しくて、ちょっぴり格好よくて、いいなって思ったけど、それ以上の気持ちは抱かなかった……抱けなかった人。

学芸会で仲良くなったところで、学年の終わりまでは三ヶ月。
しかも、大好きな先生がいなくなることを知った私は、とてもじゃないけど、それどころじゃなかったから。

結局彼とは、その後ほとんど話すこともなく二年生へと進級し、クラスが別れて終わってしまった……。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0381f/

真実に好きな人

2010年12月2日02時23分発行